



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

サウジアラビア：スルタン皇太子が死去

中東調査会インターン（筑波大学大学院修士課程）加藤翔太

サウジアラビア王宮府は10月22日未明、スルタン・ビン・アブドルアジーズ皇太子（第一副首相兼国防航空相）が死去したと発表した。生まれた年については諸説があるが、80歳代半ばだったとされている。スルタン皇太子は今年6月から米国、ニューヨークの病院で病氣治療のため、入院中であった。葬儀は25日に首都リヤドで執り行われる予定である。

スルタン皇太子は初代国王の息子であるファハド前国王の実弟で、アブドッラー現国王の異母弟。スルタン皇太子は、リヤド州知事、農相などを歴任してきた。1962年から約50年近くに渡って国防航空相を務め、1982年のファハド前国王の即位時、国王、皇太子に次ぐ第二副首相へと就任。2005年のアブドッラー現国王の即位に伴い、皇太子兼副首相となった（この時、アブドッラー国王は、「第二副首相」を任命しなかった）。

皇太子はサウジの国防政策において中心的な役割を果たし、米国との関係構築にも多大な貢献を果たしてきた。

皇太子の後継者はアブドルアジーズ初代国王の直系男子で構成される「忠誠（バイア）委員会」の投票で決定される見通しだが、現在最も有力視されているのがナーフ・ビン・アブドルアジーズ第二副首相兼内相である。ナーフ王子はスルタン皇太子の実弟であり、2009年に第二副首相に就任。アブドッラー国王、スルタン皇太子よりも保守的とされている人物である。「アラブの春」に伴う民主化運動が勢いを増す中で、サウジでは先月、女性に

対して初めて地方選挙レベルでの参政権を与え、改革の動きを見せているが、ナーイフ第二副首相兼内相が皇太子に即位した場合、一連の民主化運動に対してどのように対応するかが焦点となる。

アブドッラー国王も現在 87 歳前後とされ、今月 17 日に脊髄の手術を受けるなど、健康面での不安視をする声が出ている。また、後継者とされるナーイフ第二副首相兼内相も 78 歳前後とサウジ王家中枢の高齢化が進む。第 2 代サウード国王から第 6 代のアブドッラー現国王にいたるまで、サウジでは初代アブドルアジーズ国王の息子達が王位を継承、即ち兄から弟への王位継承が行われてきた。今後サウジでは、初代国王の孫の世代に王位を安定的に継承していけるかが課題となる。